



旭川地方協夏期交実行委員会ニュース

第6号

【発行】
2014年6月22日
旭川地方協
(宗谷・留萌・上川)
夏期交実行委員会
発行責任者
実行委員長 星野

2日間
お疲れ様でした!!

【第6分散会】

(猿払村職 坂本 勝城)
まずは一人ひとりの職場に対する想いを聞くというところから分散会をはじめました。その中でひとりにかかる業務量が多く慢性的な時間外勤務実態と、重圧によるストレスに耐えながら仕事をしている実態が出されました。

その原因を追究していくと本来専門職が行う業務人員が適正に配置されておらず、事務職員が対応している状況があることわかりました。専門職の知識や経験がないとできない業務を行うストレスと慢性的時間外勤務によるストレスがあることを確認できました。

専門職場が抱える問題は、解決することが困難な事例が多いですが、これからも安心して働き続けるためにも、同じ思いを持つ仲間と討論して行くことが重要だと再確認しました。



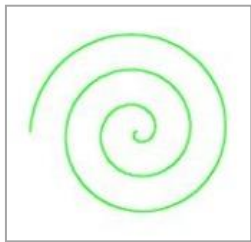
▲猿払村職 坂本 勝城さん

新たな視点で新たな気づき

自治労北海道本部青年部 副部長 渡邊さんより「職場の総点検」について講演をいただきました。

最初に、昨日の講演や分散会を振りかえって、新しい発見があったか、その発見に対してどんな行動を起こそうと思えたかを実際に書きださせることで確認を行い、また、立場によって、同じ出来事でも全く反対に見ることができるということを、「うずまき」の例えを用いて説明していただきました。

最後に、本講演で説明したことについて、集会に参加するために取り組むのではなく、困っている仲間がいるからこそ、職場に問題があるからこそ取り組むという視点に立つことが大切であると話されました。



(見る方向を変えると反対の作用になる)

次に、休暇の取りやすさや賃金などの労働条件について、自治体ごとに大きな



▲渡邊さんの熱い想い!

分散会報告

【第11分散会】

(和寒町職 大川 恭平)

分散会では合理化と職場実態について確認した。特に職場実態では、事務の引継ぎがしっかりされないまま業務を行った結果、指導や指摘をされ通常以上に時間がかかっている職場の現状を確認し、マニュアルがあれば経験の少ない職員でも業務ができるという改善に向けた声が出された。

また、超勤は上司からの命令行為である、という仕組みを知らないためサービスクラスが続いたという声もあり、今まで当たり前と思っていた職場での働き方・働かされ方を見直すことで、当たり前でないことに気づくことができることを確認しあつた。

このことを単組に持ち帰り議論していくきっかけにしていきたい。

【第2分散会】

(名寄市職 仁尾 卓矢)

基調講演の感想から話を広げ各々の職場実態について討論を行いました。

講演の感想で「『合理化』という言葉に対してはいいイメージを持っていて」「講演を聞いたが、必要なものであるという考えは変わっていない」という意見がありました。それはシステムの導入などより無駄を省いて効率化すれば人件費を節約でき、どのような人が業務についても均一に近い形で業務を遂行することができるとい理由によるものでした。

話し合っていく中でシステムの導入等により無駄を省くことも『合理化』であり、人員削減や兼務等により組織をスリム化し、労働強化につながることもまた『合理化』であることを確認しました。また、職場実態討論を行うことで、各々の印象の違いを強く感じました。

中央交流集会に向けての決意

【増毛町 北島大二郎】
中央交には初参加で

す。組合の集会自体、あまり参加したことがないので、不安な面もありますが、「何事も経験」と考えて今回参加しようと思決意しました。

初めての経験ばかりで戸惑うことも多いと思いますが、中央交で多くのことを学び、二回りも三回りも大きく成長して帰ってきたいと思えます。



【音威子府村 木津雄平】

全国の仲間と交流し、たくさんの方の学ぶ事が出来る、またとなない機会ですので、いろいろな事を吸収していきたいと思います。

また、この中央交派遣の為にカンパしていただいた方、大変ありがとうございました。



【豊富町 山形雅弘】

一つ一つの小さな取組、大きな取組それぞれが労働者を取り巻く社会を変えていく一歩となっていくことと思っておりますので、今回大きな取組である中央交に楽しむことも忘れないようにしつつ参加しようと思えます！
ともに団結し頑張りましょう！



文化闘争とは…

文化闘争ってなんだかよくわからない！という声が聞こえてきそうですが、労働者の文化とは、これまでの『労働運動』そのものを指していると考えることができません。

うたごえや構成詩は、それまでの労働運動を表現する為に作られたものです。なぜ歌うのか？という疑問もあると思いますが、歌

詞やセリフをしつかりと読み、理解し、考えてみましょう。それらが何を現わし伝えたいのかが、わかってくるはずですよ。

うたごえや構成詩は、あくまでも労働者の文化である『労働運動』をわかりやすく伝える手段であり、その歴史や本質を学び、考えることこそが文化闘争ではないでしょうか。

開催地 和寒町紹介 Vol.6 「夏・秋・冬はココだ！」

和寒町紹介も今回で6回目となりました。いよいよ終盤に差し掛かって来ましたが、教宣班はもちろんです。記事を読んでいただいている皆様もかなりの和寒マニアになってきたかと思えます。

今回は、3号に続いて和寒の観光名所「夫婦岩・和寒東山スキー場」について紹介していこうと思えます。

まずは「夫婦岩」です。10mほどの男岩と女岩、そして小さな子岩と呼ばれている大小3つの岩が立ち並んで出ています。

全国には夫婦岩と呼ばれるものがいくつも存在しますが、和寒のような内陸の地に存在するというのは非常に珍しいことです。

次に、冬期イチオシの観光地の「和寒東山スキー場」について紹介します。景色が素



(夫婦岩)



(こどもの国)

晴らしく、厳冬の雪質も最高です。リフトは上下2つしかありませんが、上のリフトから林間コースを進むと、上級者でもそれなりに楽しめるスリリングな傾斜になっています。

最後に、親子で遊べる観光スポット・三笠山自然公園。公園内にある「こどもの国」にはゴーカートなど様々な遊具があります。また、キャンプ場、パークゴルフ場のアウトドア施設も整っており、家族そろって一日中楽しむことができます。

和寒町では、春には塩狩峠の桜、夏・秋には三笠自然公園でアウトドア、冬には東山でスキー、と四季折々のレジャーを存分に楽しむことができますので、ぜひ皆さんも訪れてみてください！